

2024  
10.2 (水)12:10  
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン  
(Zoom)

登録はこちら▶▶

[https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_xW5w2fQdQ2WfDnKekfBlig](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_xW5w2fQdQ2WfDnKekfBlig)

【技術支援】九州大学 Q-AOS

## 椅子の歴史に学ぶ「社会のデザイン」



## Key Words

社会デザイン

起居様式

欧化政策

椅子のデザイン

岡田 栄造 教授

九州大学 未来社会デザイン統括本部

九州芸術工科大学を卒業後、千葉大学で博士号を取得。デザインディレクターとしてさまざまな企業の製品開発に携わりつつ、京都工芸繊維大学、多摩美術大学、昭和女子大学などでプロダクトデザインやインテリアデザインの教育を行ってきました。2023年10月に九州大学未来社会デザイン統括本部シンクタンクユニットのデザインディレクター・教授に就任しました。ドイツの Red Dot Award や iF Design Award、イギリスの D&AD、日本のグッドデザイン賞などの受賞歴があります。

社会のデザインはどのように行われるのでしょうか？本セミナーでは、明治時代以降の日本における椅子座の文化の移入と、日本人による椅子のデザインの変遷を辿り、そこから見える「社会のデザイン」のプロセスや方法を議論します。

住宅などの建物の中で椅子に座る習慣のなかった日本人にとって、「床座」から「椅子座」への起居様式の変化は、欧化政策の一環として、子供たちが学ぶ学校の教室から半ば強引に進められたものでした。その過程では「床座か椅子座か」を巡る議論や抵抗があり、その中で椅子座を良しとする根拠が構築されます。それからしばらくして明らかになった矛盾が日本人に自ら椅子をデザインする動機をあたえ、ついには日本独自の椅子が生まれるに至ります。日本人の習慣や文化を変えた一連のプロセスを「社会のデザイン」の興味深い、示唆に富んだ事例として紹介します。